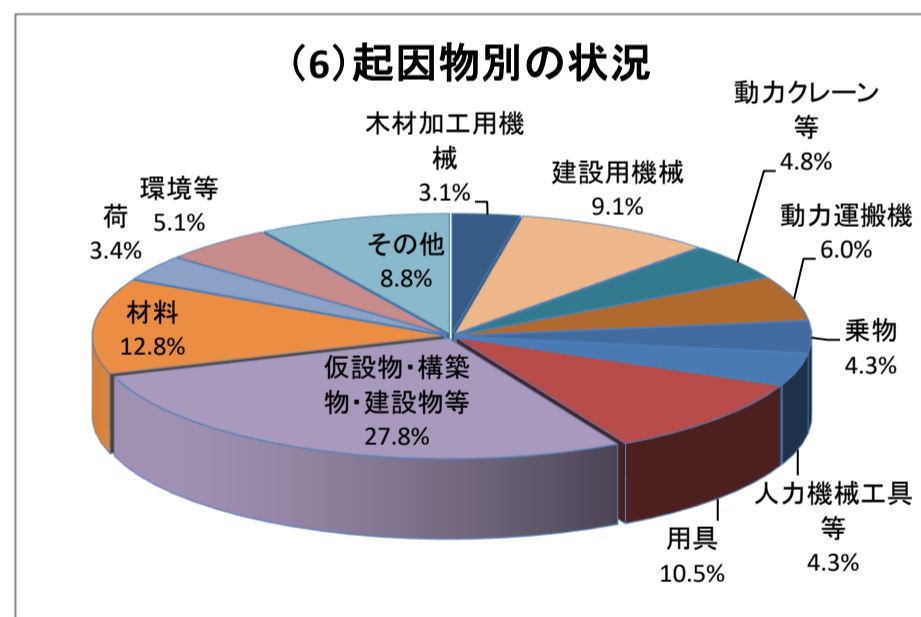
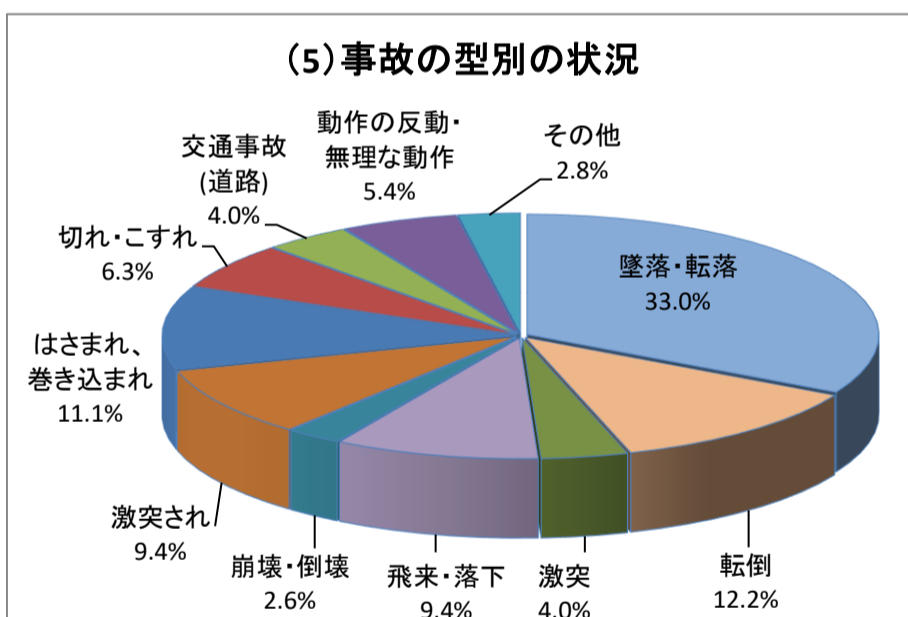
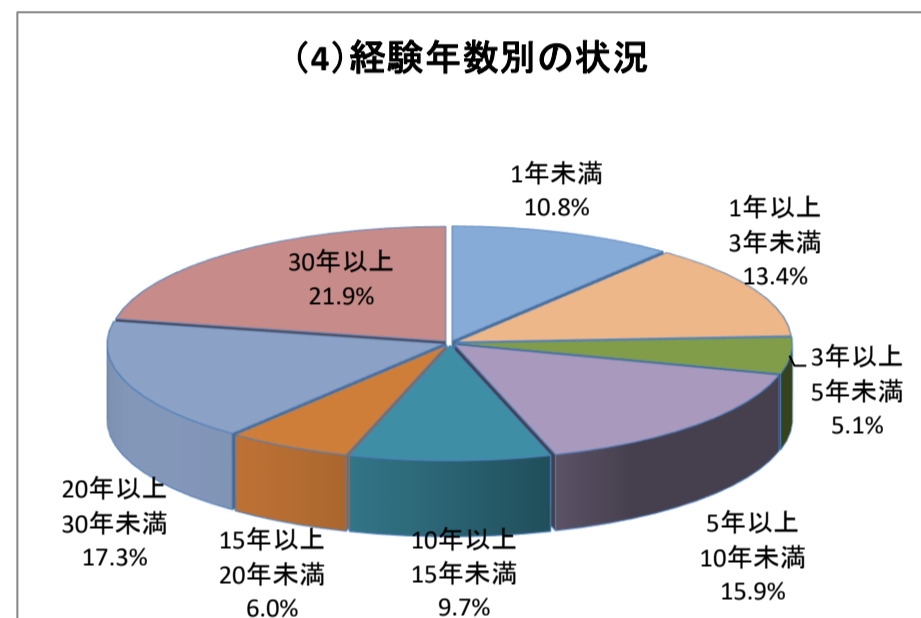
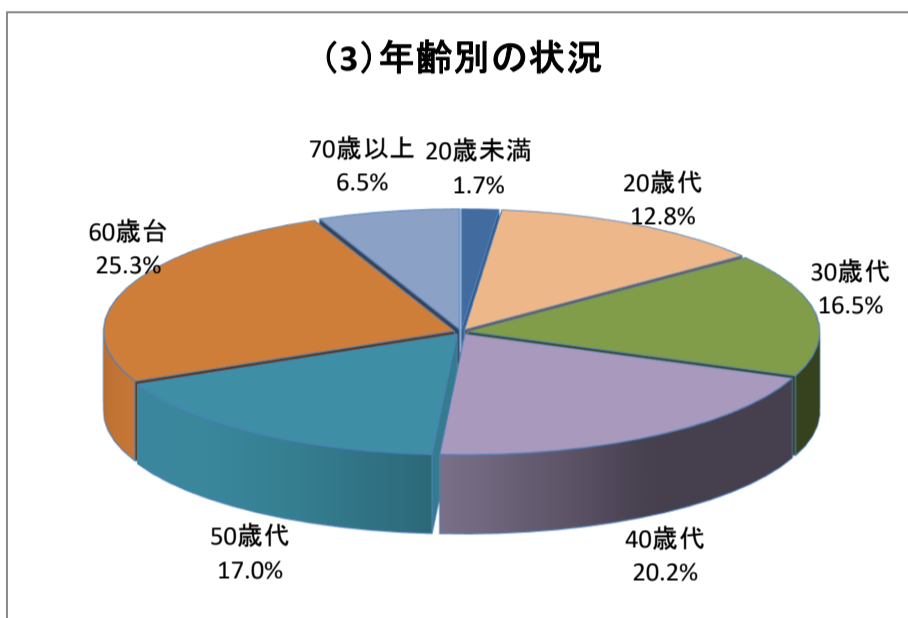
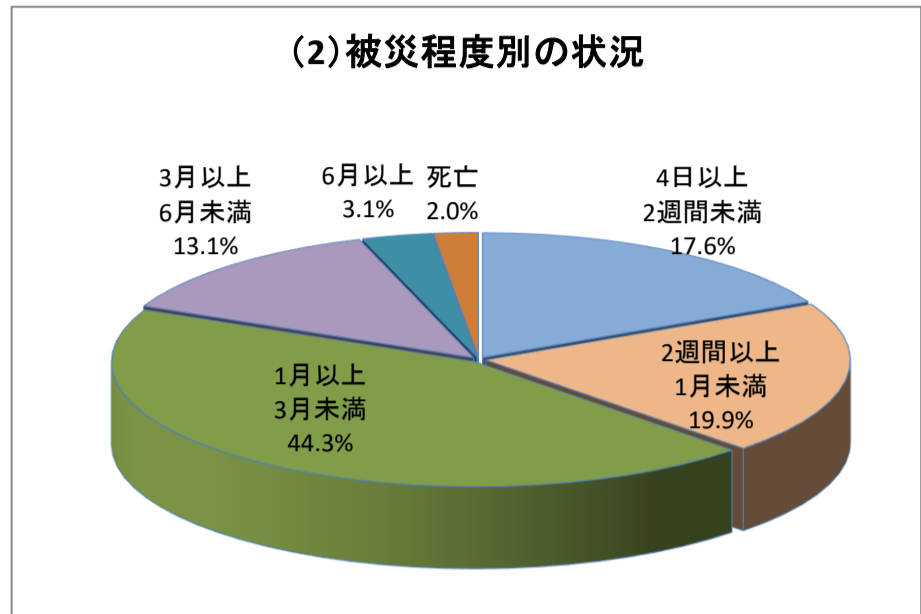
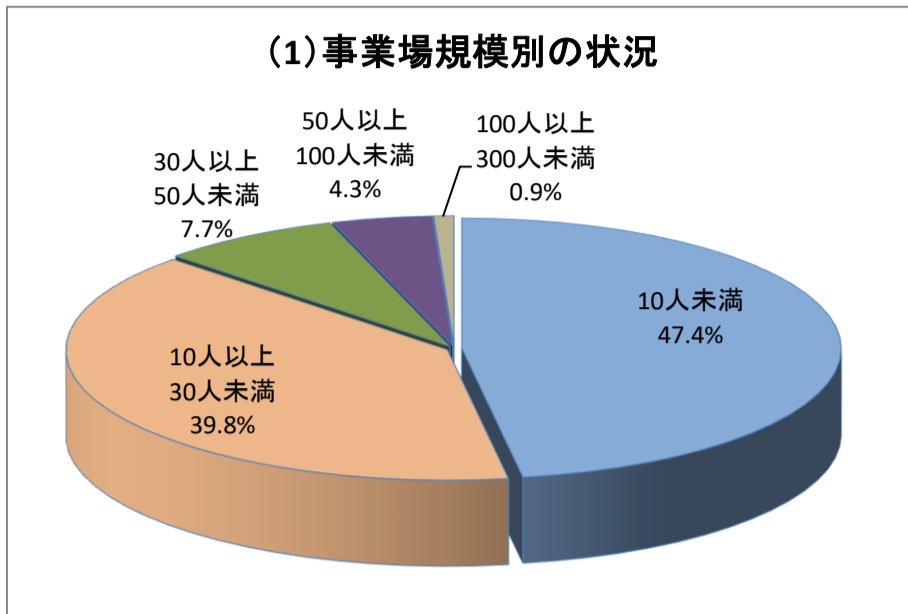


# 14.建設業における労働災害発生状況(令和元年)

(建設業:352人)



- 「被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が44.3%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が19.9%、「4日以上2週間未満」が17.6%の順となっている。休業日数1月以上の災害の割合が62.5%となっている。
- 年齢別では、「60歳代」が25.3%と最も多く、次いで「40歳代」が20.2%、「50歳代」が17.0%の順となっている。60歳代以上が31.8%と3分の1を占めている。
- 経験年数別では、「30年以上」が21.9%と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が17.3%、「5年以上10年未満」が15.9%の順となっている。経験年数が長い者の割合が高い。
- 事故の型別では、「墜落・転落」によるものが33.0%と最も多く、次いで「転倒」が12.2%、「はさまれ、巻き込まれ」が11.1%の順となっている。
- 起因物別では、「仮設物、建設物、構築物等」(屋根、梁、足場等)が27.8%と最も多く、次いで「材料」が12.8%、「用具」(はしご、脚立、玉掛用具等)が10.5%の順となっている。